

プロジェクトのイメージ（案）

平成31年3月14日
事務局

プロジェクトの選定にあたっては、次のような点を考慮する。

■重要性:

「技術ありき」ではなく、誰のどのような課題を解決するかが明らかで、その課題の解決が重要であること。

■展開可能性:

インクルージョンの対象となる他のケーススタディへの展開が可能であること。

■一般利用への波及:

日本社会全体の便益につながること。

■スピーディな実現:

プロジェクトの実施にあたり、法的・社会的な面での制約がないこと。

■世界展開:

日本の技術・サービス等の世界展開の基盤になること。

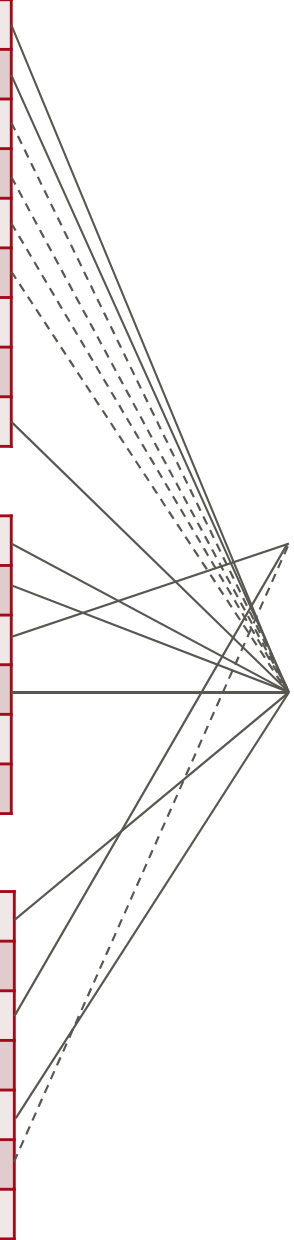
外国人を巡る課題とプロジェクト類型の対応

外国人観光客	日本語が理解できず、外国語が通じない(音声、文字、標識等)
	災害時に信頼できる情報を適切な言語で提供できない
	キャッシュレス決済ができない
	必要な食事が食べられない
	ネットにアクセスできない
	交通機関が利用しにくい
	マナーに関するトラブル
	直前キャンセル
	特定場所に集中し、魅力ある地方を訪問してもらえない

技能系人材	日本語が理解できず、外国語が通じない
	災害時に信頼できる情報を適切な言語で提供できない
	来歴や習得状況を把握できず、トラブル対応、技能活用が困難。
	行政機関に相談したいが、対応窓口が遠い、わからない
	居住地区が近接しており、日本人コミュニティと摩擦が起きる
	仕事に関連する書類の理解、作成が困難

専門職人材	家族の仕事や学校がみつからず、日本に来れない、定着しない
	本国の家族の介護などで帰国せざるを得ない
	就職活動がうまくいかず、日本が嫌いになってしまう(留学生)
	海外から自動車免許の更新など各種手続きができない、複雑
	家族の社会保障などの手続きが面倒
	優秀な若手人材を採用できない
	採用しても定着しない

プロジェクト類型
①技能実習生、留学生等への継続支援
②多言語環境とワンストップサービスの実現



プロジェクト類型①技能実習生、留学生等への継続支援

AI・ブロックチェーン技術等を活用して、技能実習生・留学生等の実習・学習状況等の正確な記録、マッチング、帰国後の日本技術等の活用支援を実施する。

■課題1《来日前に的確な情報入手が困難》

: 技能実習や留学等を希望する者は、的確な情報入手が困難で、自分に適した技能実習先・留学先を選びづらい。

■課題2《記録の信頼性がなく不正が生じやすい》

: 技能実習生や留学生等の実習状況や学習履歴等について、改ざんや偽造が行われた事例がある。

■課題3《帰国後に日本・日系企業等への就職が困難、日本社会と距離》

: 技能実習の修了者や留学先の卒業生等が帰国した後、日本企業や日本に関連ある現地企業等で職を得ることが難しい。また、日本社会と接する機会が乏しい。

《方策1》技能実習先・留学先とのマッチング

・技能実習生の送出機関や現地日本語学校等にシステムを提供し、技能実習や留学を希望する者の履歴情報を入力し、AIを活用して、日本の受入れ先企業や学校等の情報とのマッチング機能を提供する。

《方策2》日本での実績を正確に記録し保存

・ブロックチェーン技術を活用し、技能実習生の実習状況や賃金支払状況、留学生の学習履歴、取得資格等を正確に記録し、保存するとともに、技能実習生や留学生が必要に応じて利用することを可能とする。

《方策3》日本企業や日本に関連ある現地企業等とのマッチング

・方策2により記録されたデータを活用してマッチングを実施し、高いスキルを持った技能実習修了者や留学卒業生の現地日本・日系企業等での雇用を促進。また、地方の人材不足に対応する観点から、地方の中小企業とのマッチングも実施。

《方策4》帰国後に日本の技術、サービス等を利用するためのウェブ又はアプリの提供

・帰国後においても継続して、あるいは最新の日本の技術、サービス等を利用することを支援し、日本の技術、サービス等の世界展開の基盤にする。また、広い意味での親日層の拡大にも貢献。

外国人向けに多言語環境やワンストップサービスを実現し、観光や生活における利便性の向上を図る。

■課題1《言語上の課題》

: 日本語が通じず、不便を感じたり、災害・トラブルに巻き込まれることもある。また、民間サービス・行政手続き等の窓口で多言語化が進んでいない。

■課題2《ワンストップ機能の不在》

: 来日直後や生活の立ち上げ期などで、民間サービス・行政手続き等に個別に対応する負担が大きい。

■課題3《ニーズの把握》

: 外国人が観光や生活をする上で本当に困っていること、期待していることなどが、実地に則して把握できていない。

《方策1》多言語翻訳機能やキャッシュレス決済機能を有するアプリの提供又は端末の貸与

《方策2》ワンストップのための多言語翻訳機能を有するウェブ又はアプリの提供

例; 通信(スマホの申込等)、金融(銀行口座の開設等)、宿泊先・住居、電気・ガス、学校、引越、各種行政手続き

《方策3》行動・相談内容等の分析とフィードバックによるサービスの改善や新しいサービスの提供

・方策1及び方策2で収集し、蓄積した位置情報、行動記録、会話内容等を分析することで、外国人のニーズや課題を把握し、サービスの改善や新しいサービスの開発につなげる。

《方策4》旅行先等のレコメンデーション、災害情報のリアルタイム通知

・観光客に対して、属性別に人気の高い観光地や体験(ニッチなものを含む)を明らかにし、観光レコメンデーション(旅程作成サービス)を提供する。
・災害発生時には、外国人の居場所にあわせた災害情報やAIで最適化した避難場所を通知。アプリの利用状況などから外国人の所在を特定し、自治体等の救助関係者に通知する。